

令和5年度 中期目標・中期計画等の進捗に関する自己点検・評価報告書（総括表）

【自己評価区分】  
 I 中期目標の達成のためには遅れている  
 II 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる  
 III 中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

中期目標番号	中期目標	中期計画番号	自己評価区分	評価指標	実施状況（第4期中期目標・中期計画）		
					令和4年度	令和5年度	中期目標期間内(R4~R5) (定量的評価指標)
1	人材養成機能や研究成果を活用して、地域の産業（農林水産業、製造業、サービス産業等）の生産性向上や雇用の創出、地域の医療や文化の発展を牽引し、地域の課題解決のために、地方自治体や地域の産業界をリードする。①	①-1	II	1. 共創スペースの形成数 【3件以上（第4期中期目標期間の累計）】	0件	2件	2件
				2. 共創スペースの関与自治体・企業数 【自治体・企業あわせて150以上（第4期中期目標期間の累計）】	0	51	51
				3. 共創スペースに参加した自治体・企業等からの満足度 【本学との協働取組に満足又は地域の課題解決に資する取組や具体的成果等を判断できる回答が7割以上（第4期中期目標期間の4年目終了時及び第4期終了時）】	※ 令和7年度、令和9年度に実施予定	※ 令和7年度、令和9年度に実施予定	※ 令和7年度、令和9年度に実施予定
2	新潟大学が2030年に向けて掲げるミッションである「ライフ・イノベーションのフロントランナー」として、持続可能な未来社会の実現に向けた、SDGsに関する実証をキャンパス等で行う。【独自】	独自-1	II	4. 地球環境、SDGs（特に健康と福祉、教育、海の豊かさ、陸の豊かさ）等に関する課題解決に向けた地域やキャンパス等における実証の試行数 【100以上（第4期中期目標期間の累計）】	99	120	120
				5. 各キャンパス実証等で作成したロジックモデルで想定したアウトカムの実現数 【第4期中期目標期間の4年目終了時30%以上、第4期終了時60%】	0%	0%	0%
				6. キャンパス実証の成功事例 【①企業による商品化、②受賞等の表彰、③他機関が模倣する、等の「成功」と評価できる事例の誕生（第4期中期目標期間中）】	該当なし	医師主導治療において、指定難病「肺腺癌」のうち9割を占める自己免疫性肺腺癌に対するGM-CSF吸入療法が薬事承認された。この吸入療法は自己免疫性肺腺癌に対する薬物療法として世界初であり、また、サイトカイン吸入療法（GM-CSFはサイトカインの一種）としても薬事承認は世界初である。 この吸入療法に使用される新薬については「サルゲマリン吸入用 250μg」という商品名でノーベルファーマ株式会社から販売予定である。	—
3	国や社会、それを取り巻く国際社会の変化に応じて、求められる人材を育成するため、柔軟かつ機動的に教育プログラムや教育研究組織の改編・整備を推進することにより、需要と供給のマッチングを図る。④	④-1	II	7. IT専門家による教育プログラム評価 【国内データサイエンス教育のトップレベルあるいはユニークな好取組と評価（第4期中期目標期間の4年目及び終了時）】	（教育基盤機構） ・3つの数理・データサイエンス・AI教育プログラム「データサイエンス・ベーシックプログラム」、「データサイエンスリテラシー」、「データサイエンス」について、学内教員による「大学における情報活用及び数理・データサイエンス教育に関するワーキンググループ」、及び外部IT専門家による「データサイエンス教育プログラム外部評価委員会」において、教育成果の評価及びプログラム改善について検討した。その結果、令和8年度に向けてグループワークを行う科目数を増加させると共に、AI科目を充実させることにした。 （ビックデータアクティベーションセンター） ・令和5年度に、対面で本格的に実施するための準備として、データ活用を目的としたクラウドサービス構築のためのセミナーを試験的に実施した。	・令和5年度から本学の数理・データサイエンス・AI教育の開発・改善及び支援をビッグデータアクティベーション研究センターが担当することになった。これに伴い、全学部から1名以上計11名の教員を構成員とし、同センター内に「数理・データサイエンス・AI教育プログラム運営委員会」を設置した。今後、同委員会において本学の数理・データサイエンス・AI教育プログラムの運用・評価・改善を進めていくことにした。	—
				8. 医療系人材を育成する教育プログラム受講者数 【90人以上（第4期中期目標期間終了時）】	189人	268人	268人
		④-2	II	9. 新設・再編した大学院学位プログラムの設置数 【8プログラム以上（第4期中期目標期間の累計）】	2プログラム	2プログラム	4プログラム
				10. 研究科・専攻を越えた教員で担当する学位プログラム数 【4プログラム以上（第4期中期目標期間の累計）】	2プログラム	2プログラム	4プログラム
				11. 国際共同学位プログラムの開設数 【30プログラム（第4期中期目標期間終了時）】	23プログラム	23プログラム	23プログラム
4	特定の専攻分野を通じて課題を設定して探究するという基本的な思考の枠組みを身に付けさせるとともに、視野を広げるために他分野の知見にも触れることで、幅広い教養も身に付けた人材を養成する。（学士課程）⑥	⑥-1	II	12. マイナー（新副専攻）プログラムの開設数 【38プログラム（第4期中期目標期間の累計）】	28プログラム	30プログラム	30プログラム
				13. マイナー（新副専攻）プログラムの履修者数 【入学生員の3分の1以上（第4期中期目標期間終了時）】	6.9%	8.8%	8.8%
		⑥-2	II	14. メジャー・マイナー制を利用した学生の満足度 【学生に対するアンケート調査結果の高評価80%以上（第4期中期目標期間の4年目終了時及び第4期終了時）】	※ 令和7年度、令和9年度に実施予定	※ 令和7年度、令和9年度に実施予定	※ 令和7年度、令和9年度に実施予定
				15. 新潟のフィールドを活かした教育プログラムの履修者数 【学士課程の全学生（第4期中期目標期間終了時）】	8,246人 (学部在籍者数 (R4.5.1現在) : 9,992人)	9,052人 (学部在籍者数 (R5.5.1現在) : 9,992人)	9,052人 (学部在籍者数 (R5.5.1現在) : 9,992人)
				16. 渡航型及びオンライン型の留学を含む英語等によるグローバル対応力養成教育を体験した学生数 【学士課程全学生数の60%以上（6000人以上）（第4期中期目標期間終了時）】	20.6%	51.2%	51.2%

令和5年度 中期目標・中期計画等の進捗に関する自己点検・評価報告書（総括表）

【自己評価区分】  
 I 中期目標の達成のためには遅れている  
 II 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる  
 III 中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

中期目標番号	中期目標	中期計画番号	自己評価区分	評価指標	実施状況（第4期中期目標・中期計画）		
					令和4年度	令和5年度	中期目標期間内（R4～R5） （定量的評価指標）
5	研究者養成の第一段階として必要な研究能力を備えた人材を養成する。高度の専門的な職業を担う人材を育成する課程においては、産業界等の社会で必要とされる実践的な能力を備えた人材を養成する。（修士課程）⑦  深い専門性の涵養や、異なる分野の研究者との協働等を通じて、研究者としての幅広い素養を身に付けさせるとともに、独立した研究者として自らの意思で研究を遂行できる能力を育成することで、アカデミアのみならず産業界等、社会の多様な方面で求められ、活躍できる人材を養成する。（博士課程）⑧	⑦⑧-1	II	17. 博士前期（修士）課程修了生の博士後期（博士）課程への進学率 【7%（第4期中期目標期間終了時）】	6.4%	6.9%	6.9%
				18. 学外又は関連他分野からの学位論文審査委員の任用率 【100%（第4期中期目標期間終了時）】	7.9%	6.1%	6.1%
				19. 留学を含むグローバル対応力養成教育を体験した大学院生の割合 【100%（第4期中期目標期間終了時）】	3.4%	16.3%	16.3%
				20. 就職希望の博士修了者が産業界（医療機関を含む一般企業）へ就職する割合 【80%（第4期中期目標期間終了時）】	93.5%	91.8%	91.8%
				21. 高度地域医療人材の育成数 【25人以上（第4期中期目標期間の累計）】	7人	6人	13人
6	データ駆動型社会への移行など産業界や地域社会等の変化に応じて、社会人向けの新たな教育プログラムを機動的に構築し、数理・データサイエンス・AIなど新たなリテラシーを身に付けた人材や、既存知識をリバイズした付加価値のある人材を養成することで、社会人のキャリアアップを支援する。⑩	⑩-1	II	22. リカレント教育プログラム新設数 【9プログラム以上（第4期中期目標期間の累計）】	1プログラム	1プログラム	2プログラム
				23. リカレント教育プログラム履修者数 【200人以上（第4期中期目標期間終了時）】	158人	140人	140人
				24. 受講修了者の満足度 【受講修了者の高評価80%以上】	※ 令和5年度以降に受講修了者の満足度に関するアンケートを実施予定	※ 令和6年度以降に受講修了者の満足度に関するアンケートを実施予定	※ 令和6年度以降に受講修了者の満足度に関するアンケートを実施予定
				25. 研究業績数 【2000本（うちWeb of Science(WoS)収録論文1300本）（第4期中期目標終了時）】	1,807本 (WoS収録1,319本)	1,816本 (WoS収録1,059本)	1,816本 (WoS収録1,059本)
7	真理の探究、基本原理の解明や新たな発見を目指す基礎研究と個々の研究者の自発的動機に基づいて行われる学術研究の卓越性と多様性を強化する。併せて、時代の変化に依らず、継承・発展すべき学問分野に対して必要な資源を確保する。⑪	⑪-1	II	26. 分野内インパクトファクター上位25% (Q1) ジャーナル掲載論文数 【450本（第4期中期目標期間における年平均）】	434本	552本	493本
				27. 科研費の大型種目の受入れ件数 【代表として15件以上（第4期中期目標期間における年平均）】	9件	14件	11.5件
				28. 脳の一生を見渡せる脳地図の作製状況 【運動を司る領域（運動野-体路）の脳地図の作製（第4期中期目標期間中）】	脳地図の作製に向けて、前年度に所内公募で立ち上げた研究プロジェクト11件を実施し研究基盤の強化を進め、令和5年度以降も各プロジェクトを推進していく予定とした。	従来から実施しているプロジェクト11件に加え、新たに関連する研究分野3件のプロジェクトを採択し、脳地図の作製に向け研究領域を広げた。	—
		⑪-2	II	29. 大規模脳データの解析をおこなう国内外の研究ネットワーク組織の形成 【共同研究締結（第4期中期目標期間中）】	71件	—	—
				30. 脳研究に係るTop10%論文数 【1.7本以上（第4期中期目標期間における年平均）】	2本	4本	3本
				31. “ひと脳”の研究成果に立脚したQ1臨床研究論文数 【17本以上（第4期中期目標期間における年平均）】	23本	24本	23.5本
				32. 共創スペースで行う社会実装に向けた研究開発数 【100件以上（第4期中期目標期間の累計）】	4件	18件	22件
8	地域から地球規模に至る社会課題を解決し、より良い社会の実現に寄与するため、人文社会系を含む幅広い基礎研究や学際的研究により得られた科学的理論や基盤的知見の現実社会での実践に向けた研究開発を進め、社会変革につながるイノベーションの創出を目指す。⑫	⑫-1	II	33. 取り組みの進捗度と社会からの評価 【80%以上の取り組みにおいて「順調に進捗している」又は「優れている」の評価を得ること（第4期中期目標期間の4年目終了時及び第4期終了時）】	※ 令和7年度末、令和9年度末に進捗評価に関するアンケートを実施予定	※ 令和7年度末、令和9年度末に進捗評価に関するアンケートを実施予定	※ 令和7年度末、令和9年度末に進捗評価に関するアンケートを実施予定
				34. 防災・減災に関する共同研究数 【20件以上（第4期中期目標期間における年平均）】	21件	27件	24件
		35. 防災・減災に関する社会連携及び実証研究の実施件数 【10件以上（第4期中期目標期間における年平均）】	11件	11件	11件		

令和5年度 中期目標・中期計画等の進捗に関する自己点検・評価報告書（総括表）

【自己評価区分】  
 I 中期目標の達成のためには遅れている  
 II 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる  
 III 中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

中期目標番号	中期目標	中期計画番号	自己評価区分	評価指標	実施状況（第4期中期目標・中期計画）				
					令和4年度	令和5年度	中期目標期間内（R4～R5） （定量的評価指標）		
9	国内外の大学や研究所、産業界等との組織的な連携や個々の大学の枠を越えた共同利用・共同研究、教育関係共同利用等を推進することにより、自らが有する教育研究インフラの高度化や、単独の大学では有し得ない人的・物的資源の共有・融合による機能の強化・拡張を図る。⑧	⑧-1	II	36. 共同研究費【8億円（第4期中期目標期間終了時）】	633,067千円	615,970千円	615,970千円		
				37. 産学地域連携参加教員数【300人以上（第4期中期目標期間終了時）】	226人	247人	247人		
		⑧-2	II	38. リモート化研究設備数【50台以上（第4期中期目標期間終了時）】	50台	51台	51台		
				39. 人材育成システムにて育成した人材数【10人以上（第4期中期目標期間の累計）】	0人	0人	0人		
		⑧-3	II	40. 新潟研究基盤ネットワークへの参加機関数【5機関以上（第4期中期目標期間終了時）】	3機関	3機関	3機関		
				41. 脳研究所が国内外の大学・研究所・製薬会社等と組織的に連携した取組件数【75件以上（第4期中期目標期間における年平均）】	71件	68件	69.5件		
					42. 脳研究所が組織的連携によって得られた査読済み英語学術論文数【67本以上（第4期中期目標期間における年平均）】	63本	40本	51.5本	
					43. 教育共同利用実習等の実施件数・利用延べ人数【演習林17件・800人、臨海実験所15件・900人（第4期中期目標期間における年平均）】	演習林23件・1,142人 臨海実験所27件・1,312人	演習林20件・1,192人 臨海実験所26件・1,308人	演習林21.5件・1,167人 臨海実験所26.5件・1,310人	
		10	世界の研究動向も踏まえ、最新の知見を生かし、質の高い医療を安全かつ安定的に提供することにより持続可能な地域医療体制の構築に寄与するとともに、先端医療の拠点として医療分野を先導し、地域社会の中核となって活躍できる医療人を養成する。（附属病院）⑨	⑩-1	I	44. 専門資格取得者（第4期中期目標期間中に本院の医師で、新たに認定医（高度な知識や技能、経験を持つ医師・歯科医師として学会が認定）又は専門医（認定医よりさらに高度な知識や技能、経験を持つ医師・歯科医師として学会が認定）の資格取得者）数【440人以上（第4期中期目標期間の累計）】	81人	91人	172人
						45. サブスペシャリティ領域専門医取得者（専門医制度において、日本専門医機構に認定されたサブスペシャリティ領域の新規登録者）数【230人以上（第4期中期目標期間の累計）】	13人	17人	30人
46. 国際学会発表数【300件以上（第4期中期目標期間における年平均）】	186件					278件	232件		
⑩-2	II			47. 医師主導治験の新規実施件数【4件以上（第4期中期目標期間の累計）】	2件	0件	2件		
				48. 企業等との共同研究実施数【8件以上（第4期中期目標期間における年平均）】	6件	4件	5件		
				49. 先端医療研究による外部資金獲得額【2,800万円以上（第4期中期目標期間における年平均）】	518,774千円	425,847千円	472,310千円		
⑩-3	II			50. 先端医療研究英語論文数【210件以上（第4期中期目標期間における年平均）】	273件	203件	238件		
				51. 高度医療、先端医療実施件数【先進医療A：患者5人、先進医療B：患者2人、高難度新規医療技術の承認件数：6件（第4期中期目標期間における年平均）】	先進医療A：患者75人 先進医療B：患者0人 高難度新規医療技術の承認件数：10件	先進医療A：患者74人 先進医療B：患者0人 高難度新規医療技術の承認件数：20件	先進医療A：患者74.5人 先進医療B：患者0人 高難度新規医療技術の承認件数：15件		
				52. 病院間情報通信網を活用した医療提供実績【ICTを活用した地域医療体制構築への参画（第4期中期目標期間終了時）】	新潟県内における新型コロナウイルス感染症への対応に関して、本院の通常の高度救急医療を維持しながら、新潟県内の各病院と密な連携（情報、ノウハウの提供、自治体対策本部への参画。）をし、既存の感染症対応病院で対応不能となった場合に、重症患者の対応を行った。	新潟県内において限りある医療資源を地域で効果よく活用するため、脳梗塞の際の血栓回収対応症例に関する情報共有システムNE-net Neuroの運用を開始した。 ・入退院支援クラウドシステム（CAREBOOK）を導入し、後方連携強化（当院患者のスムーズな退院先確保）を行った。	—		
				53. 地域のステークホルダーと大学経営陣の意見交換会の開催状況【概ね年度に1回以上の開催】	開催回数：6回	開催回数：11回	開催状況：毎年度実施 開催回数：8.5回/年度		
11	内部統制機能を実質化させるための措置や外部の知見を法人経営に生かすための仕組みの構築、学内外の専門的知見を有する者の法人経営への参画の推進等により、学長のリーダーシップのもとで、強靱なガバナンス体制を構築する。⑩	⑪-1	II	54. 学長のリーダーシップのもとで強靱なガバナンス体制が構築できているかの外部評価（年度に1回以上実施し、「学長のリーダーシップのもとで、強靱なガバナンス体制が構築できている」との評価を得ること）	・本学の法人経営及びガバナンス体制の構築状況等について、経営協議会学外委員による外部評価を実施し、ガバナンス体制の構築状況について、6人の委員から「充分整っている」、2人の委員から「おおむね整っている」旨の評価を得た。	・本学の法人経営及びガバナンス体制の構築状況等について、経営協議会学外委員による外部評価を実施し、ガバナンス体制の構築状況について、7人の委員から「充分整っている」、1人の委員から「おおむね整っている」旨の評価を得た。	—		
				55. 監事による意見を受けた改善等への反映状況【改善等の状況に対する事後評価が、第4期中を通じて「おおむね良好」以上の評価】	・令和5年4月27日の役員会において、平成30年度～令和3年度の監事監査報告書に係る対応状況について、改善策の実施状況を報告した。 ・監事による意見を受けた改善等への反映状況について、「改善策をおおむね良好に実施している」との評価を受けた。	・令和6年4月24日の役員会において、令和3年度～令和4年度の監事監査報告書に係る対応状況について、改善策の実施状況を報告した。 ・監事による意見を受けた改善等への反映状況について、「改善策をおおむね良好に実施している」との評価を受けた。	—		
				56. 中堅教員等の幹部候補者育成数【のべ60人（第4期中期目標期間の累計）】	17人	15人	32人		
		⑪-2	II	57. 幹部候補者育成計画の対象である概ね40代の中堅教員等からの提案数【60件以上（第4期中期目標期間の累計）】	7件	7件	14件		

令和5年度 中期目標・中期計画等の進捗に関する自己点検・評価報告書（総括表）

【自己評価区分】  
 I 中期目標の達成のためには遅れている  
 II 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる  
 III 中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

中期目標番号	中期目標	中期計画番号	自己評価区分	評価指標	実施状況（第4期中期目標・中期計画）		
					令和4年度	令和5年度	中期目標期間内（R4～R5） （定量的評価指標）
12	多様な学生・研究者の創造的な活動の活性化に向けて、大学の機能を最大限発揮するための基盤となる施設及び設備について、保有資産を最大限活用するとともに、全学的なマネジメントによる戦略的な整備・共用を進め、地域・社会・世界に一層貢献していくための機能強化を図り、安全・安心で、環境負荷の少ないキャンパスの整備を行う。⑤	②-1	II	58. 保有施設の老朽改善状況 【計画達成率：大規模改修：50%以上、部位別改修：80%以上（第4期中期目標期間中）】	大規模改修：100.0% 部位別改修：29.0%	大規模改修：67.0% 部位別改修：31.0%	大規模改修：67.0% 部位別改修：31.0%
				4. 地球環境、SDGs（特に健康と福祉、教育、海の豊かさ、陸の豊かさ）等に関する課題解決に向けた地域やキャンパス等における実践の試行数 【100以上（第4期中期目標期間の累計）】 （再掲）	99 （再掲）	120 （再掲）	120 （再掲）
				59. 全学共用スペースの有効活用状況 【流動化率（全学共用スペース総数に対する公募スペース等の全学的観点で利用するスペースの割合）80%（第4期中期目標期間中）】	95.7%	86.2%	91.0%
				60. 多様な財源を活用した施設整備の件数 【180件以上（第4期中期目標期間の累計）】	58件	136件	136件
13	公的資金のほか、寄附金や産業界からの資金等の受入れを進めるとともに、適切なリスク管理のもとでの効率的な資産運用や、保有資産の積極的な活用、研究開発の活用促進のための出資等を通じて、財源の多元化を進め、安定的な財務基盤の確立を目指す。併せて、目指す機能強化の方向性を見据え、その機能を最大限発揮するため、学内の資源配分の最適化を進める。⑤	②-1	II	61. 寄附金額 【12億円以上（第4期中期目標期間における年平均）】	1,477,039千円	1,446,149千円	1,461,594千円
				36. 共同研究費 【8億円（第4期中期目標期間終了時）】 （再掲）	633,067千円 （再掲）	615,970千円 （再掲）	615,970千円 （再掲）
14	外部の意見を取り入れたつつ、客観的なデータに基づいて、徹底した自己点検・評価及び大学情報の分析を行い、その結果を可視化するとともに、それを用いたエグゼクティブの法人経営を実現する。併せて、経営方針や計画、その進捗状況、自己点検・評価の結果等に留まらず、教育研究の成果と社会発展への貢献を含めて、ステークホルダーに積極的に情報発信を行うとともに、双方の対話を通じて法人経営に対する理解・支持を獲得する。⑤	②-1	II	62. 学部・研究科等における自己点検・評価の結果に基づく改善状況（学長による改善検討指示数に対する実施割合） 【毎年度100%】	100.0%	100.0%	100.0%
				63. 学部・研究科等における自己点検・評価の結果に基づく資源配分への反映状況 【毎年度の教員人事制度及び予算編成において自己点検・評価の結果を配分に反映させる仕組みがあること】	・本学では、「ポイント制」（中期計画【23-1】参照）において、全学の機能強化等を目的とする「学長裁量ポイント」の仕組みを設け、本学の若手教員比率の分析等も踏まえ、若手・女性・外国人教員の雇用・登用を促進する取組を進めてきた。令和2年度からは、この「学長裁量ポイント」を活用して、「新潟大学若手教員スイングバイ・プログラム」（若手教員一括採用育成制度）を開始し、令和4年度は、本プログラムにより、16分野17人の若手教員（うち女性7人、外国人4人）を採用するとともに、令和5年度については13分野13人の若手教員（うち女性6人、外国人4人）の採用を決定した。 ・新年俸制において、各教員のモチベーションを高めることを目的として、毎年の業績評価とは別に、外部資金獲得の顕著な実績や卓越した学術的業績など、新潟大学全体に対する多大な貢献を踏まえて、「トリプルスター」から「シングルスター」までの3段階の報奨対象者を学長が決定して報奨金を支給する「特別報奨」制度を実施し、令和5年度は、ダブルスター1人、シングルスター7人に対し、学長から報奨金を贈呈した。 ・第3期中期目標期間の4年目終了時評価の結果に基づき本学に配分された「法人運営活性化支援分」を原資に、評価機関による評価（現況分析）において高い評価を得た局部に対し、令和5年度予算において追加配分を行った。	・本学では、「ポイント制」（中期計画【23-1】参照）において、全学の機能強化等を目的とする「学長裁量ポイント」の仕組みを設け、本学の若手教員比率の分析等も踏まえ、若手・女性・外国人教員の雇用・登用を促進する取組を進めてきた。令和2年度からは、この「学長裁量ポイント」を活用して、「新潟大学若手教員スイングバイ・プログラム」（若手教員一括採用育成制度）を開始し、令和5年度は、本プログラムにより、12分野12人の若手教員（うち女性5人、外国人3人）を採用するとともに、令和6年度については16分野16人の若手教員（うち女性6人、外国人4人）の採用を決定した。 ・新年俸制において、外部資金獲得の顕著な実績や卓越した学術的業績など、新潟大学全体に対する多大な貢献を踏まえて、「トリプルスター」から「シングルスター」までの3段階の報奨対象者を学長が決定して報奨金を支給する「特別報奨」制度を実施し、令和4年度は、ダブルスター1人、シングルスター4人に対し、学長から報奨金を贈呈した。 ・第3期中期目標期間の4年目終了時評価の結果に基づき本学に配分された「法人運営活性化支援分」を原資に、評価機関による評価（現況分析）において高い評価を得た局部に対し、令和4年度予算において追加配分を行った。	
				64. アンケート・インタビュー調査による本学に対するステークホルダーからの評価 【毎年度1回以上実施し、本学の法人経営に対する理解と支持の具体的な内容を明示できること】	・経営協議会外部委員から意見を取集した。経営協議会外部委員から、本学の法人経営及びガバナンス体制について評価を受ける書面調査「新潟大学の法人経営及びガバナンス体制に対する評価について」を実施し（令和5年1月17日～2月7日実施）、理解・指示する点及び改善点等を明らかにした。	・経営協議会学外委員に対し、本学の法人経営及びガバナンス体制について評価を受ける書面調査「新潟大学の法人経営及びガバナンス体制に対する評価について」を実施し（令和6年2月5日～2月20日実施）、理解・指示する点及び改善点等を明らかにした。	
15	AI・RPA（Robotic Process Automation）をはじめとしたデジタル技術の活用や、マイナンバーカードの活用等により、業務全般の継続性の確保と併せて、機能を高度化するとともに、事務システムの効率化や情報セキュリティ確保の観点を含め、必要な業務運営体制を整備し、デジタル・キャンパスを推進する。⑤	②-1	II	65. RPA導入等による業務の削減時間数 【42,000時間以上（第4期中期目標期間の累計）】	3,835時間	8,292時間	12,127時間
				66. プロジェクト型SD修了者数 【60人以上（第4期中期目標期間の累計）】	16人	13人	29人
				67. 執行系事務の削減時間数 【1日1人当たり1時間以上（第4期中期目標期間終了時）】	0.37時間	0.54時間	0.54時間
				68. 企画・マネジメント業務時間数 【1日1人当たり5時間以上（第4期中期目標期間終了時）】	4.38時間	4.57時間	4.57時間
				69. 全学におけるDX推進に係る経営資源の投入状況 【毎年度の全学におけるIT関連予算を見える化した資料の公表】	学外へのIT予算見える化した資料は、「新潟大学統合報告書」にIT関連予算について表現する予定	「統合報告書2023」の以下の箇所に、本学の価値創造プロセスへの投資として推進する種々のIT関連事業の件を記載した。  (P.07-08) 価値創造プロセス デジタル・キャンパスの推進、データサイエンス人材の育成・輩出、グリーン・デジタル社会の実現  (P.11) データサイエンス人材の育成 (P.14) ビッグデータで未来を拓く (P.21) DX推進・大学運営のスマート化	
				70. 事務効率改善等による教職員満足度（ES） 【ES値の向上（第4期中期目標期間初年度・4年目終了時・第4期終了時）】	0.97	1.38	※4年目終了時（令和8年度）に比較
71. インターネットを活用した遠隔教育環境の整備等に係る学生の満足度（CS） 【CS値の向上（第4期中期目標期間初年度・4年目終了時・第4期終了時）】	0.18	0.21	※4年目終了時（令和8年度）に比較				